

2016年1月16日 北海道新聞 朝刊

スキー場譲渡先 再公募

来季再開へ早期契約目指す

【蘭越】町は、リフトの老朽化などのため2013年末から営業休止中のチセヌプリスキー場の譲渡先を再公募している。譲渡先として内定していた東京の人材派遣会社との交渉が昨年11月に不調に終わったため。同スキー場は、外国人客らでにぎわう「ニセコ観光圏」に含まれ、再開に期待する声があるため、町は来冬の営業再開を視野に早期の契約成立を目指す。

(小池伸之)

町は2014年12月～15年4月に町のホームページ（HP）で譲渡金額5千万円で経営移譲先を公募。人材派遣会社と交渉を進めていたが、連帯保証人の設定などをめぐり最終合意には至らず、15年12月18日から再びHP上で譲渡先を募集している。

譲渡金額は、前回と同じ5千万円。現場は道有林のため、譲渡先は道と林野賃貸契約書を交わし、保証人を定めて事業撤退時の原状回復義務を負う。

町は14年7月、国から倶知安、ニセコ両町と3町で構成する「ニセコ観光圏」の認定を受け、奥ニセコに

譲渡先を再公募しているチセヌプリスキー場



ある同スキー場は「ニセコリゾート」の一角を担う施設として再開を望む声は少なくない。15年9月に建て替え開業した、隣接する温泉施設「雪秩父」は多くの来場者でにぎわっており、一体となった観光振興策の必要性は高まっている。

公募期間は1月20日までと、前回よりも短く設定。既に数件の問い合わせがあるという。町は2月に提案書を審査して譲渡先を内定し、道の審査を経て「4月にも（譲渡契約の）議案を町議会に提出できれば（町総務課）としている。